

## 【発表抄録】

2018年10月3日(水) アスティとくしま 第2特別会議室 開催  
在宅医療・介護連携の推進等ため情報共有に係る ICT 利活用に関するフォーラム

### 講演「阿波あいネットについて」

徳島大学病院 病院情報センター 玉木悠

本講演においては、総務省クラウド型 EHR 高度化事業において構築された、徳島県全域を網羅する Electronic Health Record (以下、EHR) である「阿波あいネット」の概要について報告するとともに、阿波あいネットへの住民参加同意取得、医療・介護施設参加獲得の活動結果、課題について報告した。

これまで、県内の 12 基幹病院に EHR が整備されており、徳島大学病院を中心とした「徳島糖尿病克服ネットワーク (ToDo-Net)」、西部保健医療圏を中心とした「あわ西部ネット」、徳島県鳴門病院の「徳島県鳴門病院地域連携ネットワーク」、徳島赤十字病院の「徳島赤十字病院地域連携ネットワーク」の 4 ネットワークが運営されている。しかし、既存の EHR は臨床で活用するには、技術的、運用的、組織的課題があり、十分に活用が進んでいるとは言えない状況であった。

#### 【従来の EHR の課題】

課題としては、①電子カルテを導入している施設のデータしか提供できない (技術的課題)、②システムのメーカーが異なると繋ぐことができない (技術的課題)、③個人情報取扱のための同意取得ルールが異なり施設ごとに同意を取得する必要がある (運営的課題)、④施設横断的に運営を担い、合意形成をはかる組織がない (組織的課題) 等が挙げられる。

#### 【阿波あいネットの取り組み】

阿波あいネットでは、これらの課題解決のため、①電子レセプト等の既存電子データ収集による電子カルテ非依存、②厚生労働省標準規格 (XCA、PIX/PDQ) 導入による異メーカー間接続、③同意説明文書・同意書・撤回書の統一、④一般社団法人阿波あいネットの設立、等の施策を実施している。

平成 30 年 7 月現在において、利用施設 94 施設 (検討継続中の 2 施設含む)、参加同意者 23,388 人の参加が得られており、9 月末時点では参加同意者 25,528 人に達しており順調に増加していることが報告された。EHR の技術的課題は解決されつつあり、今後は収集した医療・介護情報を活用方法の研究開発が進展することが期待される。

#### 【今後の課題：適正な個人情報の取り扱いルールの合意形成】

より多くの参加同意を得て、医療・介護関係者間で活用を促進するには、適切な個人情報の取り扱いについて地域住民の合意形成が非常に重要である。阿波あいネットでは、徳島県の協力により個人情報保護条例に基づく審査会の答申を得ることができた。結果、「自施設に受診歴や予約がある患者」に限定し、「必要な個人情報取扱・情報セキュリティの研修を修了した」医療・介護関係者が参照できる運用ルールとなった。医師・歯科医師に限定して阿波あいネットの運用は開始されるが、これを介護関係者も含めたより多職種での利用に拡充していくには関係者の教育の他、ICT を活用した医療・介護情報共有の実際について多くの県民に周知、理解を深めてもらい、合意形成していく必要がある。県民や国民の合意に基づくルールとしては、合意形成に至る手続き論からして法律や条例が最も適正かつ正当性が担保されたルールである。立法機関である議会での継続した熟議が期待される。